

市町村名	南大東村						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-①	健康診査用機材搬送事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部課名	福祉民生課	事業実施 (予定)年度	平成24～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上	
事業内容	Ⅲ-9 住民健診が安定的に実施できる環境を整えることにより定住促進を図る為、特定健診等の集団健診に使用する健診機材及び胸部レントゲン車の海上移送船運賃及び荷役料、検査技師等の来島渡航費を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	1,267	1,094	1,787	1,939	1,996
		(b) 予算現額	822	1,172	423	431	407
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 445	78	▲ 1,364	▲ 1,508	▲ 1,589
		(d) 繰越額	—		—	—	—
		A. 計 (b+d)	822	1,172	423	431	407
	B. 執行済額		822	1,172	423	431	407
	うち交付金充当額		657	937	338	345	325
	次年度繰越額		0	0	0	0	0
	執行率 (％) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
予算の状況の説明		検診のための検査技師等スタッフ来島渡航費の委託料は、合計406,800円(結核・肺がん検診176,400円、大腸がん検診58,800円、乳がん・子宮がん検診171,600円)であった。胸部X線車輦は、委託している健診機関との交渉成立に至らず、沖縄県立南部医療センター(親病院)の使用許可と附属南大東診療所の協力により、診療所での利用となったため、予算削減となった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	1. 集団健診機材の海上輸送運賃の委託	目 標	(補助の実施)	(補助の実施)	(補助の実施)	(委託の実施)	
		実 績	補助の実施	未実施	未実施	未実施	
	2. 検査技師等スタッフ来島渡航費の委託	目 標	()	(補助の実施)	(補助の実施)	(委託の実施)	
		実 績		補助の実施	補助の実施	委託の実施	
達成状況説明	平成25年度の住民健診予定日の10月には、台風が3回発生し、予定より1ヶ月後の健診となり、胸部レントゲン車を長期間島に置くことになったため、台風発生時期をずらすには、4月～6月の間の日程調整を申し入れた。医療機関としては、学校健診等胸部レントゲン車に空きがないとの理由で実現に至っていない。検診医療機関に毎年交渉している。平成28年度には県にがん検診等の問題点、課題要望書を報告しているが、問題解決に至っていない。沖縄県立南部医療センター(親病院)の使用許可と附属南大東診療所の協力により、診療所での利用となった。このことは検診車が実現する間との交渉で実現している。受診率アップのため住民検診と近い日程を設定し、実施に至った。前回よりほぼ横ばいではあった。検査技師等スタッフ来島渡航により、各種がん検診を実施することができ、住民一人一人の健康状態を確認でき、要再検・要精査の方には、通知により再受診を勧奨する事ができ、早期発見、早期治療に繋がった。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値 (23年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	集団健診受診者数	目 標	(325)	(360人(55.1%))	(570人(55.1%))	(360(41.0%))	()
		実 績		397人(45.2%)	523人(91.7%)	315人(87.5%)	
	【参考指標】 胸部レントゲン撮影者数	目 標	()	(360人(55.1%))	(570人(55.1%))	(360(41.0%))	()
		実 績		269人(30.6%)	431人(75.6%)	236人(65.5%)	
	進捗状況説明	胸部レントゲン車の海上移送はできなかったが、胸部X線の撮影を島内の診療所で受診できた。しかし、成果目標に対する受診実績は低下し、前年比の実績も減となった。住民健診の日程と近い日に設定したところ、住民の協力や、広報等により昨年と比較して、受診率はほぼ横ばいではあるが、実施できた。各種がん検診実施のための、検査技師等スタッフの派遣により、継続して実施できた。					

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	・村民の検診は、継続的に村で取り組む必要があるため、胸部レントゲン(X線)機械掲載の車輛を海上輸送の必要がある。住民健診・がん検診の同時受診により受診率アップの継続ができる。 ・健診機関に実施交渉をしているが、車台の不足により、実施できてない。 ・県立附属の南大東診療所のレントゲン機械を使用するには、土曜日・日曜日等の祝祭日のみ借用できる。 ・住民健診・胸部レントゲン検診(がん検診)同時受診の実績人数と診療所での別日程の受診人数に開きがあり、胸部レントゲン健診は低くなっている。	診療所での使用条件では、集団検診受診者と同数の受診向上は見込めないと判断した。受診率向上には、集団検診、胸部レントゲン撮影を同時に行う必要があるため、胸部レントゲン車移送実現のため、検診医療機関に要望している。
今後の取り組み方針		
今後、実現するために、沖縄県や他市町村の実施状況を情報収集し、別の医療機関に交渉(那覇市医師会等)していく。 各種がん検診の病気の早期発見、早期治療に繋がるため、受診率勧奨を強化し、検診率の向上に努力する。又、検診結果、要精査の方々の把握により、早期に精査の受診勧奨を行う。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>407</td><td>407</td><td>325</td><td>82</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	407	407	325	82	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
407	407	325	82	0										
南大東村 407千円 → 委託料 407千円 → (一財)沖縄県健康づくり財団 (○ 検診スタッフの渡航費)														
資金使途の流れ、検・費目・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○委託先は沖縄県で唯一離島住民の健康診査業務を担っている一般財団法人であるため妥当である。 ○予算規模内容及び費用・目的は事業に見合った内容であり、事業目的に必要な不可欠な経費である。 ○費用・使途が事業目的に即し、検査時に書類等で確認しており、真に必要なものに限定されている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南大東村						
平成２８年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-②		専門病院受診渡航費助成事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ	
担当部署名	福祉民生課		事業実施（予定）年度	平成25～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上 Ⅲ-9	
事業内容	定住促進を図る為、沖縄本島で専門の治療や検査の受診を余儀なくされている住民の渡航費を支援する。						
実施方法	□直接実施 □委託 ■補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,685	4,491	5,912	5,912	
		(b) 予算現額	2,913	5,809	7,068	7,791	
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 2,772	1,318	1,156	1,879	
		(d) 繰越額	—	—	—	—	
		A. 計 (b+d)	2,913	5,809	7,068	7,791	
	B. 執行済額		2,913	5,809	7,068	7,790	
	うち交付金充当額		2,331	4,647	5,654	6,232	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率（％）(B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算では210人を想定し、予算計上したが、実績では410人と大きく上回ったため、予算1,879千円を増額した。 【助成金利用者内訳】 患者336人／6,433,609円、付添人／74人1,356,759円、合計410人／7,790,368円(7,791千円) (内 急患患者 9人／130, 545円、小児のみ 46人／594, 144円)					
活動目標（指標）及び達成状況	H28活動目標（指標）		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	専門病院受診渡航費助成の実施	目 標	(204件)	(助成の実施)	(助成の実施)	(助成の実施)	
		実 績	163件	助成の実施	助成の実施	助成の実施	
		目 標	()	()	()	()	
		実 績					
達成状況説明	平成25年6月1日から渡航費助成事業を開始した。当初より村広報誌、住民説明会等で村民に周知した。 平成26年度から、村内診療所にて紹介状発行患者に対して、助成制度窓口宛て「紹介状発行証明書」を渡し、制度の周知をした。 平成27年度から渡航前に窓口へ「紹介状発行証明書」の提出を誘導し、必要書類の案内、及び手続方法をチラシ及び口頭案内を行った。紹介状発行証明書の提出目的は、治療を要したい方は、まずは南大東診療所で受診をし、医師が島内での治療が困難と認めた方で、紹介先の医療機関と紹介先診療科を記載された証明書を患者が保健センターに提出をし、診断及び受診状況証明書の様式（専門治療先の医療機関に記載してもらう）を手渡している。自己判断で島外医療施設受診した場合、事業の対象としないと判断ができる。平成28年度は、申請の提出期間を3月17日に案内したところ、早めの手続きの事務処理ができた。 平成29年度からも引き続き、診療所との連携を行い、必要書類の案内及び手続方法をチラシ及び口頭案内を行う。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H28成果目標（指標）		基準値（年度）	26年度	27年度	28年度	目標値（年度）
	経済的な事情により、受診を遅らせたり、見送ることが無く早期治療により、重篤化防止に繋がりが安心した生活ができる。 専門病院受診者 155件 付添人 45件	目 標	()	(115件 55件)	(155件 45件)	(155件 45件)	()
		実 績		240件 52件	306件 69件	336件 74件	
	【参考指標】 南大東診療所から島外医療機関への紹介状発行件数	目 標	()	()	()	()	()
		実 績		270件	284件	290件	
進捗状況説明	成果目標の件数は、受診見込みの件数と付添人は、中学生以下、認知症、障害がある者等、ひとりでの移動が困難な場合で、おおよその見込みで計上した。制度対象者へ診療所または申請窓口において、直接案内できたことから前年度実績375人を大幅に上回り410人の実績となった。多い要因は15歳未満の受診者が昨年20件に対し、今年は46件で、それに伴い付添人も同人数増加している。又、高齢者のがん患者（新患）の受診者が増加している。 年々制度の周知・口コミにより、対象者の利用増に繋がった。 診療所からの「紹介状発行証明書」の発行を行い、保健センターへの提出を誘導することで、必要書類の案内、及び手続方法をチラシ及び口頭案内を行うことができた。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	申請書に添付書類として、 ①村内診療所が紹介状発行した事実(紹介状発行証明書)または、急患空輸患者(急患空輸要請書)、 ②沖縄本島専門医療機関主治医による診断書、 ③専門医療機関の領収書、 ④渡航費領収書、 ⑤搭乗券または乗船券(証明書含む)、 ⑥宿泊施設の領収書(1泊6千円以内、受診日及び前日の最大2日間)を必要とし、申請者の書類準備期間に時間を要する。特に高齢者は、添付書類不備が多く、家族や支援者が必要である。 小児意外にもがん患者の治療が初期の段階に多くっており、渡航費のみでなく患者を支援するための支援(パンフレット配布含む等)の必要性がある。	当該制度は南大東村内での治療が難しいとされる患者へ対する救済制度の為、左記①『村内診療所が紹介状を発行した事実』を確認するため、「紹介状発行証明書」を採用し、患者自身の自己判断による受診のための渡航費用の助成とならないよう制度の適正運用が必要である。 また、左記②『沖縄本島専門医療機関主治医による診断書』を必要とする際、従来は患者自身の口頭説明による診断書発行依頼であったため、記載内容不備となるケースの改善をし、平成26年度7月から(1)診断書記入例(2)制度案内チラシ(3)(1)記入例と同様式の診断書採用し、患者及び主治医の診断書にかかる労力削減が必要である。 対象者がもれなく、申請ができるよう、窓口での説明に努め、また、高齢者の方の書類不備が目立つので、家族の方を同行するよう協力を求める。
今後の取り組み方針		
今後も村内診療所において、専門治療及び加療が必要な患者の渡航費助成を行うことで、経済的な負担軽減により、診療治療が中断することなく、専門医療機関での継続治療を促し、健康増進に繋げる。 (1)患者自身の判断で、専門治療渡航費の助成とならないように、適正運用を行う。 (2)渡航費の経済的理由により受診が遅れないよう、窓口での制度資料の配付や説明を行う。 (3)安易な理由(検査)で受診にならないよう、窓口での制度説明に努める。 (4)申請もれがないよう、保健センターだよりを有効活用し、制度周知する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>8,656</td><td>7,790</td><td>6,232</td><td>1,558</td><td>866</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,656	7,790	6,232	1,558	866
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,656	7,790	6,232	1,558	866										
南大東村 7,790千円 補助金 7,790千円 村内住民 7,790円 費用(渡航費及び宿泊費)の1割を利用者(患者)負担額として交付対象外経費とする。(平成28年度865千円) 南大東村内診療所での治療が難しいとする者、且つ専門的な治療を必要とする者で渡航費及び宿泊費の経済的負担を軽減することを目的に費用助成														
資金使途の流れ、点検・評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○事業目的に沿った申請受付・審査・決定・決定通知・振込は、適正に処理されている。 ○不用額は事業費の1%以内であり適正な規模であった。 ○費用の1割を利用者自己負担とし対象外経費としている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南大東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤	離島食品・日用品輸送費等支援実証事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-ア		
担当部署名	産業課	事業実施(予定)年度	平成28～33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	交通・生活コストの低減		
事業内容	離島における割高な生活コストの低減を図るため、沖縄本島から南大東島へ輸送される食品や衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援を実施する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	14,641				
		(b) 予算現額	12,995				
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 1,646				
		(d) 繰越額	—				
		A. 計 (b+d)	12,995				
	B. 執行済額		12,995				
	うち交付金充当額		10,395				
	次年度繰越額		0				
	執行率 (%) (B/A)		100.0%				
予算の状況の説明		当初は14,641千円を計上していたが、3月末の実績報告に間に合わせるには、輸送費・作業経費の事務処理を3月16日迄の航海で閉める必要があり、16日以降の3航海分については補助対象外となったため予算残が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			28年度	29年度	30年度	31年度	
	食品、衣類・履物、日用品、医薬品、保健医療用具・器具、家庭用電気製品等の輸送経費及び作業経費の支援	目標	輸送経費及び作業経費の支援	()	()	()	()
		実績	輸送経費及び作業経費の支援				
		目標	()	()	()	()	
		実績					
達成状況説明	沖縄県、南大東村との按分のため、取り組み方法の調整に時間が掛かり、出だしが遅れてしまったが、その後は順調に進めることが出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	・沖縄本島と離島の生活必需品等の価格差(沖縄本島を100%とした場合の指数)の縮小 ※価格差は県で行っている物価調査を使用している。	目標	()	価格差の縮小	()	()	()
		実績		指数:120% 22.5ポイントの価格差の縮小			
	【参考指標】 H23指標:142.5%	目標	()	()	()	()	()
		実績					
	進捗状況説明	補助対象となっている店舗による商品の値引き等がみられた。商店によっては各商品を値下げするとあまりお客様の実感がわきづらいということで年数回セールを行っていた。セールの際も事業で軽減されたセールということも分かるように提示していた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	元々送料が安い商品等はどうしてもあまり値引きの実感がが分かりづらいため対策が必要。 輸送費、作業経費などの算出に係る事務作業に時間が掛かるため作業効率を上げる必要がある。	島民の方にもっと事業の実施による価格の減少が伝わるように元値、値引き後の価格を値札に記入し分かるようにする等、各商店に依頼する。
今後の取り組み方針		
輸送費、作業経費の算出の事務作業を進めつつ、選定方法・データの手打ち部分を極力少なく出来る様に改善を行い、航路事業者、各商店に円滑に補助金の支払、補助額の通知が各月出来るようにする。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>12,995</td><td>12,995</td><td>10,395</td><td>2,600</td><td>0</td></tr> </table> 卸売業者等 航路事業者等 登録事業者 (離島小売店) 住民等 補助金 12,995千円 南大東村 12,995千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	12,995	12,995	10,395	2,600	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
12,995	12,995	10,395	2,600	0										
資金の流 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○輸送経費・作業経費補助内容にそった航路事業者で支出先は妥当である。 ○不用額については、事務処理によるものであり適正な規模である。 ○事業費用については事業目的達成の観点から積算書類、支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南大東村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑥	農業雇用者確保整備事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(11)-イ		
担当部課名	産業課	事業実施(予定)年度	平成28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	生活環境基盤の整備及び教育・医療・福祉における住民サービスの向上			
事業内容	Ⅲ-9							
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a) 当初予算額	13,389					
		(b) 予算現額	13,284					
		(c) 増減額 (b-a)	▲ 105					
		(d) 繰越額	—					
		A. 計 (b+d)	13,284					
	B. 執行済額		13,283					
	うち交付金充当額		10,626					
	次年度繰越額		0					
	執行率 (%) (B/A)		100.0%					
予算の状況の説明		当初、土地、建物の購入費として、13,389千円を計上していたが、価格見直しがあり3月補正で105千円を減額した。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	国有財産(土地・建物)の取得	目標	(国有財産(土地・建物)の取得)	()	()	()		
		実績	国有財産(土地・建物)の取得					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
達成状況説明	農業雇用者住宅として国有財産(宅地677.1㎡・RC造平屋建て共同住宅130.86㎡)の取得整備に伴い安定的な雇用者の確保が可能となり農業生産者の流出の防止、地域経済の活性化による雇用の場の創出等、更なる農業の振興が図られる。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	農業雇用者住宅の設置完了	目標	()	(農業雇用者住宅の設置完了)	()	()	()	
		実績		農業雇用者住宅の設置完了				
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	本施設(3LDK2世帯分)を整備することにより、共同住宅として延べ6名程度の入居が可能となり深刻化する高齢化する農家の労働力不足等の課題解決に向けて、島外や国外からの研修生や雇用者の確保が可能となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	南大東村は、開拓当初から島の経済を支えるさとうきびを基幹産業として栄え、近年は農地集約が進み、農家1戸当たりの平均肥培面積は8㌦と大きく、大型機械化農業が成り立っている。国内外の農業を取り巻く環境が厳しくなる中において、近年は、所得向上を目指してかぼちゃ等の日持ちのする作物をを輪作とする農業生産者も増えている。しかしながら高齢化が進み労働力不足が深刻な状況となっている。若者を必要とする機械化農業の更なる発展とその対策としてJAや法人事業所が第1次産業ネット(求人情報ネット)等や公益財団法人オイスカの国際的な農業開発協力活動を活用した国外からの農業研修生の受け入れ、島外からの季節労働者や新規就農者等、農業雇用者の確保に努めているが受け入れ施設等が十分でない状況にある。 また、本村は一島一村の離島としての離島苦を抱え、生活物資が高く住宅の建設コストも非常に高額であり、島の環境や農業を取り巻く環境が厳しくなる中で一般の家庭では経済的にも住宅の建築に踏み出せないのが現状である。このような慢性的な住宅難は若者世代の定着も阻まれる要因となっている。	農家の高齢化に伴う労働力不足や機械化農業の持続発展に向けた若い世代の後継者の定着、新規就農者や農業雇用者の受け入れ対策として、国の合理化に伴う本施設の様な住宅を積極的に活用し、計画的に安定した受け入れ施設を確保する必要がある。

今後の取り組み方針
今後も村の人口ビジョン・総合戦略や農業振興地域計画に基づき島の経済を支える農業の発展に向け安定的な受け入れ施設の整備計画を策定し、農業生産人口の流出防止及び地域経済の活性化を図り定住促進を推進する。

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>13,283</td><td>13,283</td><td>10,626</td><td>2,657</td><td>0</td></tr> </tbody> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	13,283	13,283	10,626	2,657	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
13,283	13,283	10,626	2,657	0										
南大東村 13, 283千円 → 公有財産購入費 13, 283千円 → 内閣府沖縄総合事務局 土地:677. 01㎡ 建物:135. 36㎡														

資金の用途の流れ、検証・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	－	支出先の選定方法は妥当か。	○不用額はなく適正であった。 ○費目、使途については目的に即し、必要なものであったと判断した。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	

市町村名	南大東村												
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】													
事業番号・事業名	2-①		花いっぱいクリーン環境整備事業				沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所		第3章-3-(12)-ア				
担当部課名	産業課		事業実施(予定)年度		平成25～33年度		沖縄振興基本方針該当箇所		観光リゾート産業の振興				
									Ⅲ-1-(1)				
事業内容	観光地としての魅力向上を図るため、観光客が訪れる観光地や施設、観光地へのアクセス道路等の美化清掃を行う。												
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()												
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度		25年度(繰越)		26年度		27年度		28年度		
	予算の状況	(a) 当初予算額	23,577				9,224		7,637		9,381		
		(b) 予算現額	20,740				2,550		5,923		8,167		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 2,837		0		▲ 6,674		▲ 1,714		▲ 1,214		
		(d) 繰越額	—		9,388		—		—				
		A. 計(b+d)	20,740		9,388		2,550		5,923		8,167		
	B. 執行済額		11,352		9,388		2,550		5,923		8,166		
	うち交付金充当額		9,081		7,510		2,040		4,737		6,532		
	次年度繰越額		9,388		0		0		0		0		
	執行率(%) (B/A)		54.7%		100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		
予算の状況の説明		当初、9,381千円(3名分)で予算計上をしていたが、途中退職や長期休暇等があり退職者等の補填に時間を要してしまい賃金が計画通り執行できなくなってしまう1,214千円の減となった。											
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)			達成状況									
				25年度		26年度		27年度		28年度			
	観光地及び観光地へのアクセス道路の植栽・美化清掃(観光地 10箇所)	目標	(美化清掃)	(5箇所)		(5箇所)		(10箇所)					
		実績	美化清掃	9カ所		9カ所		10箇所					
	観光地及び観光地へのアクセス道路の植栽・美化清掃(アクセス道路 1,000m)	目標		(1500m)		(1500m)		(1000m)					
		実績		2100m		2100m		2100m					
	賃金職員雇用(3人)	目標	()	()		()		(賃金雇用(3人))					
		実績						賃金雇用(4人)					
	工事予定地:夕日の広場アクセス道路	目標	()	()		()		工事予定地:夕日の広場アクセス道路					
		実績						夕日の広場アクセス道路、光公園内整備					
達成状況説明	観光地10箇所、アクセス道路2100mの植栽・美化清掃を実施した。前年度に比べ、目標値を減しているが、減している箇所については近隣住民による協力を得て各自で清掃を行ってもらう予定をしていたが調整が上手く出来ず今年度もそのままの状態で事業を行ったため実績値は前年度と同じ実績となった。												
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)			基準値(年度)		26年度		27年度		28年度		目標値(年度)	
	観光地へのアクセス道路の植栽による景観の向上	目標	()	(景観の向上)		(景観の向上)		(景観の向上)		()			
		実績		景観の向上		景観の向上		景観の向上					
	観光施設の清掃	目標	()	(利用度の向上)		(利用度の向上)		(観光施設の清掃)		()			
		実績		利用度の向上		利用度の向上		観光施設の清掃					
	進捗状況説明	観光地のアクセス道路、観光施設の清掃を行って景観の向上、利用者の利用しやすい環境作りが出来た。											

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	各観光地、施設、アクセス道路の植栽・美化清掃を行った。 今後も美化清掃、アクセス道路の植栽を行っていき観光客の目を楽しませる箇所に実施できているか検討が必要である。 花木用のバリカンを購入し、ハイビスカス等の剪定等観光地清掃の効率を上げることが出来た。	今後も引き続き観光客の視点で見苦しい箇所がないか、確認して清掃、植栽を行い、景観の向上に努める必要がある。 年間4名以上の人員確保を目指し、備品等の整備を検討し、更なる景観の向上をはかる。 島民の方から、観光地はきれいになったが、まだまだ沖縄本島などの観光地に比べると改善すべき点がいくつかあるとの声があがった。アンケート等で意見を取り入れ清掃場所等の選定や清掃効率を上げていきたい。
今後の取り組み方針		
今後も観光地としての魅力向上を図るため、観光客が訪れる観光地や施設、観光地へのアクセス道路等の美化清掃を行う。また、植栽箇所については、観光客の目を楽しませられる箇所に実施できているか検討し、平成29年度以降の植栽箇所に反映する。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>8,166</td><td>8,166</td><td>6,532</td><td>1,634</td><td>0</td></tr> </table> 南大東村 8,166千円 賃金 3,687千円 観光施設・観光アクセス 道路清掃 作業員 3名 工事請負費 4,479千円 株式会社 大智 4,479千円					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	8,166	8,166	6,532	1,634	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
8,166	8,166	6,532	1,634	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事請負事業者は、指名競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模は、雇用者が確保できず1,214千円の減額となったが、工事費については計画通り実施ができ適正な規模であった。											
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	○事業費用については事業目的達成の観点から積算書類、支出等に関する書類により確認、適正であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	南大東村							
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	2-②	大型クルーズ船観光魅力発信支援事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-ア		
担当部課名	産業課	事業実施(予定)年度	平成28～29年度		沖縄振興基本方針該当箇所	観光リゾート産業の振興		
事業内容	島の特異な自然・文化・特産品等の魅力発信の為、大型クルーズ船の寄港を誘致する。							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()							
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	1,900					
		(b)予算現額	1,799					
		(c)増減額(b-a)	▲101					
		(d)繰越額	—					
		A.計(b+d)	1,799					
	B.執行済額		1,798					
	うち交付金充当額		1,438					
	次年度繰越額		0					
	執行率(%) (B/A)		99.9%					
予算の状況の説明		当初1,900千円で、クルーズ船誘致を計画していたが、実績に伴い3月補正で101千円減額した。減内容としてはレンタカー台数の縮小、リーフレット枚数の削減、報告書を印刷会社ではなく商工会で作成し経費削減したため減となった。						
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況					
			28年度	29年度	30年度	31年度		
	島内観光(船11隻、レンタカー25台)	目標	島内観光(船11隻、レンタカー25台)	()	()	()	()	
		実績	島内観光(船11隻、レンタカー25台)					
	郷土芸能体験(司会1名、芸能4組)	目標	(司会1名、芸能4組)	()	()	()	()	
		実績	司会1名、芸能4組					
達成状況説明	今年は、天候等にも恵まれ予定通り上陸が出来た。レンタカーを使用し島内観光地へ送迎し、船11隻を使用し巡視をし安全面の強化・緊急時移動手段の確保を行った(クルーズ船既存のボートが使用できない等)。司会による会の進行、島内芸能者による演芸の披露(沖縄民謡・大東太鼓)し、島外へ島の魅力を発信することが出来た。							
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)	
	来島数・乗客300名	目標	()	(乗客300名)	()	()	()	
		実績		乗客340名				
	・クルー50名	目標	()	(クルー50名)	()	()	()	
		実績		クルー20名				
	進捗状況説明	乗客は予定以上に上陸した。島内の観光地を案内することができた。各商店においても特産品や工芸品を販売し島内のPRができた。クルーの上陸は波の状況が悪くなり、1時間早く出港となった。乗客の方を優先して上陸させたため予定より少ない上陸となった。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	観光客の移動は、港から歓迎会場、観光名所へ島民の車で、島民の運転(ボランティア)により行った。公共の交通手段が無いため重要な役割で、ほとんど休みなく送迎いただき、負担が大きかった。観光客のアンケート結果からは、63.9%の方が島民による送迎が印象に残ったと回答しており、島を挙げてのおもてなしを印象付ける大きな要素となったと考えられるが、スタッフの負担が重い作業を、今回の様にボランティアによって継続していくのは、厳しいと思われる。 来島者の上陸する際のポートでの乗り降りでの安全面、運転手による安全運転、道路での誘導を更に強化する必要がある	前述の車の送迎然りであるが、クルーズ船の他の寄港地と比べても、アンケート結果から島民の大歓迎ぶりが非常に印象の強い等、おもてなしにほぼすべての観光客が満足した結果となっているが、地域や各組織等に負担がかかり過ぎているといった意見も多い。年度初めの時期を外すことができないのであれば、関係各位の負担を減らすようイベントの見直しも必要である。例えば、吹奏楽部の歓迎、地域の全体清掃、道路の交通誘導、大東すし・そばの提供、集落内の案内係、運行ルート等、それぞれについて実施するかどうか、負担軽減できる仕組みは無いかな等、委員会や各関係者と改めて話し合うべきである。
今後の取り組み方針		
観光客からの満足度が非常に高く、次年度以降もクルーズ船の誘致・実施を行う。本事業により、寄港による直接的な観光収入はもちろん、観光PRによる間接的な効果も一定程度生んでいるものと思われる。そのため、事業主体者としても、村内各団体や事業者、島民等に対し、より一層の理解を進めながら、各課題解消に向けた取り組みを行い継続実施していく。 今後も、関係組織団体と連携を図り引き続きクルーズ船を誘致し毎年実施できるよう努める。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
南大東村 1,798千円 → 補助金 1,798千円 → 南大東村商工会 ・クルーズ船受入・企画 ↔ クルーズ船会社 南大東村商工会 ・クルーズ船受入・企画 ↕ 村役場・小中学校・青年会 ・漁業組合・商店・生活研究会 ・土建業・JA・観光協会等 南大東村商工会 ・クルーズ船受入・企画 ↔ 意見交換														
<table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象 事業費</th><th>交付金 充当額</th><th>市町村 負担金</th><th>交付対象 外経費</th></tr> <tr> <td>1,798</td><td>1,798</td><td>1,438</td><td>360</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費	1,798	1,798	1,438	360	0
総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費										
1,798	1,798	1,438	360	0										
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助事業者は、企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○不用額はなく適正であった。											
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	○受益者である南大東村商工会も事業費を負担しており、事業内容や他の事業の負担割合から判断しても妥当であった。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	○事業費用については事業目的達成の観点から積算書類、支出等に関する書類により確認、適正であった。											

市町村名	南大東村						
平成28年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-①	人材育成派遣事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア		
担当部課名	教育委員会	事業実施(予定)年度	平成25~33年度	沖縄振興基本方針該当箇所	教育機会の拡充		
					Ⅲ-3		
事業内容	子供達の多様な能力と心身の発達や育成を図るため、島外で開催される各種大会の派遣費を支援する。						
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	3,832	2,902	3,237	3,870	
		(b)予算現額	2,072	1,979	3,142	2,880	
		(c)増減額(b-a)	▲1,760	▲923	▲95	▲990	
		(d)繰越額	—	—	—	—	
		A.計(b+d)	2,072	1,979	3,142	2,880	
	B.執行済額		2,072	1,979	3,142	2,880	
	うち交付金充当額		1,658	1,583	2,513	2,303	
	次年度繰越額		0	0	0	0	
	執行率(%) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
予算の状況の説明		当初予算では、駅伝大会参加も予定していたが、出場を辞退した事で3月補正で減額した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			25年度	26年度	27年度	28年度	
	吹奏楽部26名 中学校総合文化祭10名 英語スプリング・スピーチ大会6名 体育関係派遣72名	目標	(106)	(92)	(95)	(114)	
		実績	85	65	104	108	
	達成状況説明	吹奏楽部24名参加 中学校総合文化祭16名参加 英語スプリング・スピーチ大会6名参加 体育関係派遣62名参加					
成果目標(指標)及び進捗状況	H28成果目標(指標)		基準値(年度)	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
	①吹奏楽コンクール・アンサンブル大会(優秀賞受賞) ②英語スプリング大会・スピーチコンテスト(県大会出場) ③地区大会(60名出場) ④県大会(20名出場) ⑤中学校総合文化祭(10名)	目標	()	優秀賞受賞、県大会出場、地区大会(60名) 県大会(20名) 中学校総合文化祭(10名)	()	()	()
		実績		①吹奏楽コンクール 優秀賞・アンサンブル大会 優良賞 ②英語スプリング大会 出場 ・スピーチコンテスト 優良賞 ③地区大会53名参加 ・柔道県大会9名参加 ・中学校総合文化祭出場(16名)			
	進捗状況説明	①吹奏楽コンクール・アンサンブル大会(優秀賞受賞)に対し吹奏楽コンクール優秀賞で目標達成、アンサンブル変更ソロコンテスト優良賞で目標未達成 ②高円宮杯英語弁論大会優良賞 英語スプリング大会・スピーチコンテスト(県大会出場)に対しスプリングコンテスト予選敗退で目標未達成 ③地区大会(60名出場)に対し53名出場 ④県大会(20名出場)に対し柔道夏季及び新人大大会県大会出場(9名) ⑤中学校総合文化祭那覇地区及び県文化祭に16名出場					

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）										
	平成28年度は、吹奏楽コンクールにおいて小学生が半数の中、充分力を発揮していた。また柔道においては人数が少ない中での地区優勝は、見事である。しかし、大会やコンクールに出る際に、競争心が欠けていて日頃の練習の成果が出せず目標未達成が多い。練習だけでなく練習外での日頃の生活習慣の確立も必要である。	小学校4年から中学校3年まで幅広い学年での活動になっている。小学校4年からの参加になるので、継続した指導と地域との繋がりが重要と考える。地域人材を活用した指導と地域団体との大会参加で、競争心を培う事ができる。また、地域人材に関わることで、マナーや平常心も習得できる。目標を持たすため、専門的な分野での講師招聘も必要と考える。										
今後の取組方針												
目標を各自がしっかりと立て、その目標に向かって努力したり、活躍する環境作りが必要と考える。一村一校で同世代での練習や、レベルの確認ができない為、地域の大人に指導してもらったり試合をするなどして、大会に向けての体力と精神力の向上に繋げる。また、外部講師を招聘して、専門的な部分の指導を受け、個々の実力アップに繋げる。一人一人の目標に向かう姿勢を応援し、派遣を継続する。												
資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)												
<table><tr><td>総事業費</td><td>交付対象事業費</td><td>交付金充当額</td><td>市町村負担金</td><td>交付対象外経費</td></tr><tr><td>3,200</td><td>2,880</td><td>2,303</td><td>577</td><td>320</td></tr></table> 南大東村 2,880千円 補助金 2,880千円 南大東村小中学校 2,880千円 各大会等の派遣旅費として航空賃、宿泊費の補助 生徒108名 費用(航空運賃・宿泊費)の1割は自己負担額とし交付対象外経費としている (320千円)			総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	3,200	2,880	2,303	577	320
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費								
3,200	2,880	2,303	577	320								
資金の流れ、費目・使途の点検・評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明									
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○補助金は南大東小中学生の島外で開催される各種大会の派遣の補助金であるため妥当である ○予算規模については、駅伝大会を辞退したことで減額となったがその他事業については内容に見合っている。 ○保護者が負担できる最小限度範囲として1割が妥当であると判断した。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。									
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。										
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。										
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。										

市町村名	南大東村						
平成 2 8 年度沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	3-②	人材育成環境強化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第3章-5-(2)-ア	
担当部課名	教育委員会	事業実施 (予定)年度	平成26～33年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	教育機会の拡充	
事業内容	村営学習支援塾に講師を配置して、細かな学習支援を行い、質の高い確かな学習を習得させて、情報化社会に対応できる人材育成と学ぶ環境を整備する。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+ 「市町村負担」 ベース)			26年度	27年度	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	4,896	4,668	5,094		
		(b) 予算現額	5,394	4,909	4,890		
		(c) 増減額 (b-a)	498	241	▲ 204		
		(d) 繰越額	—	—	—		
		A. 計 (b+d)	5,394	4,909	4,890		
	B. 執行済額		5,394	4,909	4,889		
	うち交付金充当額		4,315	3,927	3,911		
	次年度繰越額		0	0	0		
	執行率 (％) (B/A)		100.0%	100.0%	100.0%		
予算の状況の説明		当初予算は、報酬、共済費として、5, 094千円を計上していたが、共済費の実績に伴い3月補正で204千円を減額した。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H28活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	学習支援センター学習支援員1名	目 標		(学習支援員1名)	(学習支援員1名)	()	
		実 績		学習支援員1名	学習支援員1名		
	【参考指標】 講師の配置 パソコン等機器の設置	目 標	講師の配置 (パソコン等機器) の設置	()	()	()	
		実 績	講師の配置 パソコン等機器の設 置				
達成 状 況 説 明	学習支援員1名の配置は達成した。しかし通所する小中学生の人数が多くなり学習支援員1名では、負担が大きかった。 週2日の小学生と週5日の中学生の学習支援を実施。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H28成果目 標(指標)		基準値 (年度)	26年度	27年度	28年度	目標値 (年度)
	小学校話すこと聞くこと、読むこと算数Bひとり5ポイント向上。	目 標	()	()	()	(5ポイント向上)	()
		実 績				国語A 12.5 国語B 16.9 算数A 3.1 算 数B2.1	
	中学校、国語数学ともひとり5ポイント向上。	目 標	()			国語5ポイント向上 算数 5ポ イント向上	()
		実 績				国語A 11.7 国語B15.7 数学A3.9 数学B2.2	
	【参考指標】 支援センターで学習している児童生徒が、 自己学習能力を身につけ、自ら課題に取り 組み、学力の向上を図る。	目 標	()	(学力向上)	(学力向上)		()
		実 績		学力向上	学力向上		
進 捗 状 況 説 明	学習支援員1名の配置で学校と連携して、学習の支援をした。全国学力テスト【小5年生／中2年生対象】の県平均を5ポイントを上回るよう目標を設定して、1年間の学習成果を検証した。 ○小学校国語A・Bとも目標の県平均の5ポイント向上は達成できた。しかし、小学校算数A本村83.5ポイントに対し県ポイントは80.4と3.1ポイント、Bに 関しては本村50.3ポイントに対し県48.2ポイントと2.1ポイントといずれも上回っているが目標の5ポイント向上には達してなく未達成である。 ○中学校国語A・B共に県平均を5ポイント以上回り目標は達成できた。しかし、数学Aにおいては本村57.1ポイント県53.2ポイントで3.9ポイント上回っ た。数学Bにおいては本村40.0ポイント県37.8ポイントと2.2ポイント上回っているが、目標未達成。本村、県どちらも獲得点数が低い。						

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	○達成・未達成の要因としては、学年によっても学力の差があることと、小学校国語については、「書くこと」「読むこと」が出来ない児童への指導を強化する必要がある。小学校算数については、基礎基本が身につけていない児童へ基礎基本を分かりやすく指導を行なう。 ○中学校国語A・Bについては県平均を上回ったが、書くこと、語彙や読書の質に関する課題がみえた。 ○学習支援を進めていく上で個々の学習状態の把握と学校での学習能力等の情報を共有して個々にあった学習指導を進めていかなければならない。	○小学校国語に関して、「書くこと」「読むこと」を意識させるため、学校と連携をとり漢字検定や質の高い読書をすすめる基礎基本を重点に指導強化を図る。算数A・Bについては、くり返し問題を解くことで基礎力をあげる必要がある。 ○中学校国語Bについては、語彙力を高めつつ、文脈に沿って言葉や要約文をつくるなど、読み・書きの学習が必要である。数学については、式の意味や図面を見るなど、基礎となる文章を読む力、解決しようとする力を身につける必要がある。
今後の取り組み方針		
国語に関しては、小中とも県平均の目標を上回るポイントを上げているが、算数については獲得点数もひくい。算数・数学においては、一人一人の基礎学力の向上と、ポイントを押さえた学習指導が必要である。文章を理解する為に問題をよく読み、計算をする。学習態度や、問題を解くまでの集中力の強化と毎日の復習の習慣化を身につけさせる必要がある。今後も学習支援を継続する。		

資金の流れ														
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>4,889</td><td>4,889</td><td>3,911</td><td>978</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	4,889	4,889	3,911	978	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
4,889	4,889	3,911	978	0										
南大東村 4, 889千円 報酬・共済費 4, 889千円 学習支援人1名 4, 889千円														
資金の 使途の 流れ、 点検、 評価・	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○報酬・共済費は、学習支援員と雇用契約をしており妥当である。 ○不用額はなく適正であった。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												